

新詳 世界史探究

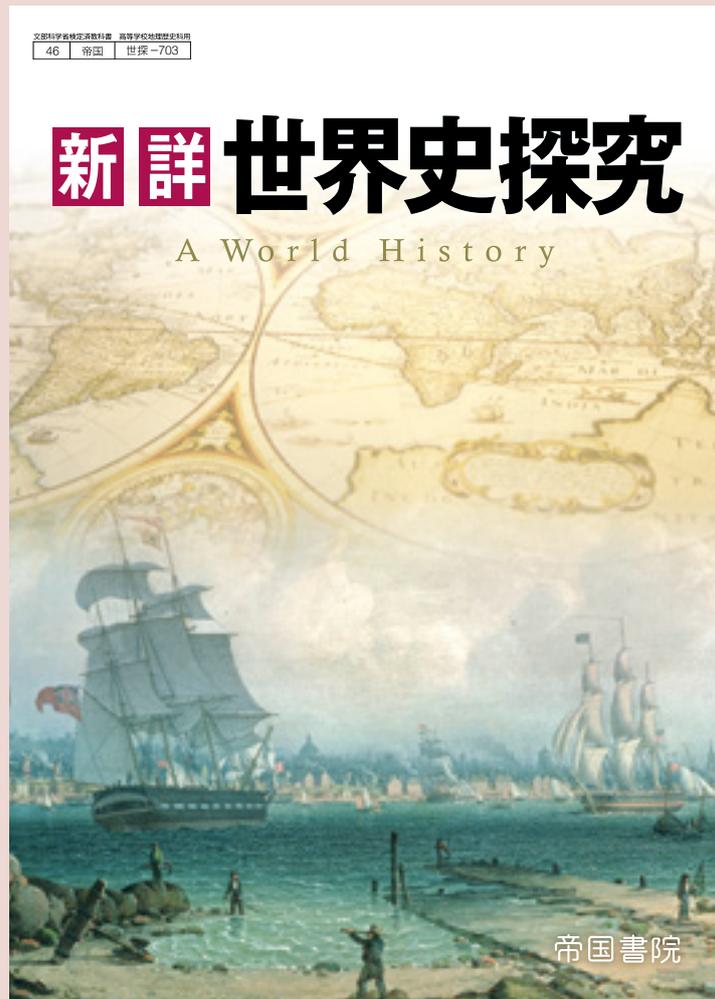
内容解説資料

部分サンプル

世探-703

指導資料・関連教材 カタログ

- 指導資料Webサポートコンテンツ付 p.2
- 教科書準拠ノート p.8
- デジタル準拠ノート p.10



 帝国書院

*本冊子に掲載している内容は、一部変更となる場合があります。

(1) 指導資料

内容をCheck!

◆単元ごとに構成しています。前半には授業展開例として、板書事項などを示した「指導内容の整理」や「指導上のポイント」を記載、後半には資料・本文の解説や問いの「解答例・ポイント」などを記載しています。

↓教科書 p.54-56 に対応したページの例①

教 p.54~56

| | |
|--|--------|
| 2部 諸地域の歴史的特質の形成 | 単元のねらい |
| 2章 南アジアと東南アジアの歴史的特質 | |
| <h2>2節 東南アジアの社会と国家形成</h2> | |
| ①東南アジアの歴史的特質を理解している。 ②東南アジアの特質について考察し、自分の言葉で表現している。 | |

| 指導内容の整理 | 指導上のポイント |
|--|--|
| ■東南アジア社会の特質 ・大陸部(インドシナ半島)：サバナ気候(モンスーンの影響) ・諸島部(マレー半島、多島海)：熱帯雨林気候 森林地帯は香辛料・香木などの産物や資源が豊富 *ただし、人間には厳しい多湿、自然災害 ・海や河川を利用した水上交通網の発達 →商業の発達と人の移動、さまざまな宗教や文化の伝播 →外部に開かれた社会の形成 ■海の道と初期国家の形成 ・東南アジアの住民 過去数千年の間に中国方面から南下 →紀元前2000年代後半頃から稲作、金属器文化が広まる ・紀元前後、「海の道」による東西貿易開始 →港市・港市国家の出現…扶南(1世紀～)・林邑(2世紀末～) ■諸国の興亡と地域文化の形成 ・インド文明の広がり ヒンドゥー教・仏教(主に大乘仏教)・サンスクリット語など ヴァルナ制は根づかず 7～8世紀、農業が発展している地域では宗教建築 7世紀以降マラッカ海峡ルートの発達 →シュリーヴィジャヤ中心の港市国家連合(7～8世紀頃) シャイレンドラ朝(8～9世紀頃) *ジャワ島にボロブドゥール寺院(大乘仏教寺院)建設 マジャパヒト朝(13世紀末～16世紀初め) ・大陸部の発展 カンボジア(真臘)：12～13世紀最盛期、アンコール=ワット (ヒンドゥー教寺院)、アンコール=トム(首都)建設 ビルマ人統一王朝：バガン朝の成立(11世紀) タイ族国家の登場(13～14世紀) 北部ベトナム：大越(李朝)：11世紀～、陳朝：13世紀～ 中部ベトナム：チャンパー ・9世紀以降は、独自の文化を生み出す動き →ベトナムのチューノムや、各地の影絵芝居など | ■中学校・歴史総合との関連 中学校社会地理的分野では、東南アジアの地形や気候、農業形態について学習している。中学校社会史的な分野での既習事項はほぼない。 発問例① 東南アジアに外来の宗教や文化が伝播した環境的な要因は何か。 ①ポイント① 豊富な資源と水上交通の発達により、商業活動が盛んとなり、それに伴いさまざまな外来宗教や文化が伝播したことに気づかせる。 発問例② シュリーヴィジャヤは、7～8世紀になぜ大きな力をもったのか。 ①ポイント② シュリーヴィジャヤなどが支配した海峡地帯は、東西交易の中継拠点であり、島嶼部の熱帯産品の集産地でもあることに気づかせる。 発問例③ なぜ、大越(陳朝)ではチューノムとよばれる民族文字が生まれたのか。 ①ポイント③ 日本でもそうであったように、10世紀に唐が滅亡し、それ以降周辺地域で「国風文化」が育まれたことに触れる。(教p.126～127にも関連させる) |

問い 解答例・ポイント
 ②教p.55 東南アジアの国家の特徴と、その背景を要約しよう。
解答例 東南アジアの国家の多くは、インド文明と

の密接なつながりがあり、ヒンドゥー教や仏教、サンスクリット文字などを導入し、ヒンドゥー教や仏教の寺院も建設された。貿易による利益をめぐる内陸の農業国家や港市国家との抗争が展開された。これらの背景には、東南アジア沿岸地域が東アジアと

↓教科書 p.54-56 に対応したページの例②

南アジアを結ぶ海上交易の要衝であったことがある。(教p.55 19～27行目)
②ポイント p.55図④や図⑤も用いながら、東南アジアの海上交易の要衝としての立地に気づかせる。

読み解き 解答例・ポイント

◆教p.55 ④2～3世紀と、⑤7～8世紀の東南アジア
解答例 中国雲南地方で銅鼓の出土が多く、ベトナム北部の大陸部からジャワ島など島嶼部にも点在する。また、ヒンドゥー教や仏教、サンスクリット文字がインドから伝来し、7～8世紀には大乘仏教国家が島嶼部に成立した。
①ポイント 銅鼓は紀元前5世紀頃雲南地方でつくられ始めメコン川下流へ伝わり、海上交易に伴い島嶼部へ拡大したことに気づかせる。またインド由来のヒンドゥー教や仏教、サンスクリット文字、中国由来の漢字なども交易で広まったことも理解させる。

写真・図版解説

◆p.55 ④ 2～3世紀の東南アジア
 中国側の漢文史料によれば、2世紀頃の東南アジアには、大陸部に二つの重要な初期国家が存在していた。メコン川下流の扶南と、2世紀末建国と考えられるベトナム中部の林邑である。海上貿易によって形成された港市を基盤とした国家と考えられている。本図でこの2国を確認するとともに、扶南の外港と考えられるオケオをチェックさせたい。この遺跡で出土したローマ金貨やインドのシヴァ神像、中国の銅鏡などにも授業では触れておきたい。

◆p.55 ⑤ 7～8世紀の東南アジア
 マラッカ海峡を抜ける貿易ルートの発達で、シュリーヴィジャヤやシャイレンドラ朝(主要基盤は農業)のような、諸島部で海上貿易に携わる国家を生み出していった。この二つの国家が大乘仏教国であることにも注目させたい。

◆p.55 ⑥ 銅鼓
 東南アジア金属器文化(文章解説参照)の代表的青銅器である。鼓面や胴部には幾何学紋様や「太陽のまわりを飛ぶ鳥」、「バードマン(鳥人)とボート」などの文様が施されている。

◆p.56 ① ボロブドゥール寺院の遺跡
 インドネシアのジャワ島中部にある大乘仏教の石造遺跡である。方形部6層の上に円形部3層を乗せ、さらに釣り鐘状の仏塔を乗せる。各部分に配置された504体の仏像や回廊の浮き彫りから、全体として密教世界を表していると考えられる。

◆p.56 ③ 12～14世紀の東南アジア
 この時期の東南アジアで目立つのは大陸部におけるタイ族の南下である。その動きは、12世紀以降、

徐々に始まっており、13世紀半ば過ぎのクビライのモンゴル軍による大理征服で一挙に進んだわけではない。タイ族は、各地に交易と稲作を基盤としたムアンとよばれる小国をつくった。

◆p.56 ④ アンコール=ワット
 カンボジアにおこった真臘が12世紀にスールヤヴァルマン2世の下で創建した、ヴィシュヌ神をまつるヒンドゥー教寺院(現在は仏教寺院)である。1623年、ここを「祇園精舎」と考え訪れた日本人の一人、森本右近太夫の墨跡がかつて聖殿内にはあったが、1970年代の内戦中に損傷してしまった。

文章解説

◆p.54 「東南アジア社会の特質」
 複雑な地形や独特の気候・生態環境をもつ東南アジア史を理解するには、まず現在の国名、それに大陸部(インドシナ半島)では主要河川名、諸島部(島嶼部・群島部)では島の名称などの確認をしておきたい。なおマレー半島南部は熱帯雨林の環境、居住する民族など、どの面でもスマトラ・ボルネオと共通性が高い。このためマレーシア全域を島嶼部に含めるのが一般的である。

東南アジアの気候と農業については誤った表現・理解がよく見受けられるので注意したい。すべて熱帯雨林に覆われているといった記述をみかけるが、熱帯雨林は赤道直下に限られ、バンコクやホーチミン市を含む大陸部の広い範囲は、明瞭な乾季と雨季の差があるサバナ気候に属する。

もう一つの誤解は、昔から豊かな穀倉地帯だったと思込むものである。しかし、湿潤熱帯は人間が住みにくく、病気の巣であり、また火山帯がはしっているため火山噴火や地震の被害も軽視できない。東南アジアの熱帯雨林帯(日照時間も気温も通年一定だと穀物は育たない)、サバナ気候のデルタなどでは、国家的灌漑網などが発達したのはごく一部だった。なお年に3度も4度も米がとれる地域があると聞いて、一期作の3倍も4倍も豊かだとする誤解も昔からあるが、これは土地の高低と灌漑・排水条件の違いなどによって作付けの時期をずらしていることを意味する。同じ田での栽培は年2回、最大でも3回が限界で、20世紀後半の「緑の革命」以前には、二期作すらまれだった。

人々の生活と農業生産には困難が多く、全体的に人口希薄なのが、近代以前の東南アジアだった。

◆p.55 6行目「金属器文化」
 前2000年紀から、東南アジア大陸部で青銅器文化が成立し、前1000年紀後半には鉄器文化も出現した。諸島部では遅れて、紀元前の末頃に金属器文化が成立する。主な中心地は雲南、北部ベトナム(ドンソ

新詳 世界史探究 演習ノート

定価：730円（本体664円＋税） ※価格は令和7年度のものです。
判型：B5判 ページ数：178ページ
内容：教科書に完全準拠した構成で授業をサポートします。
デジタル版もご用意しております。（→本冊子 p.10-11）

※『新詳 世界史探究 指導資料 Web サポートコンテンツ付』をご購入いただくと、指導書 Web サポートで準拠ノートの Word ファイルをダウンロードいただけます。

↓教科書 p.54-56 に対応したページの例（生徒用）

2 東南アジアの社会と国家形成

【教科書p.54～56】

海の道と初期国家の形成

- 初期国家の形成…前2000年代後半ごろから稲作や金属器文化が広がっていた
- 紀元前後…[1]による東西貿易の開始⇒中継地、輸産物の宝庫に
- 貿易による富の蓄積、外来文明との接触⇒都市と国家が出現
- マレー半島や大陸部沿岸の[2]と港市国家
- 港市群と内陸諸勢力が連合した大国の出現
- メコンデルタ本拠の[3]・ベトナム中部沿岸の[4](後のチャンパー)
- 華南・雲南や北部ベトナム…国家形成が秦・漢代の中国の南進によりつぶされる

諸国の興亡と地域文化の形成

- インド文明の導入(4～5世紀以後)⇒7～8世紀、ヒンドゥー教や仏教の寺院を築く
- 諸島部…[5]海峡を抜ける交易ルートが発達⇒強国の出現(7世紀以後)
- 7世紀半ば…[6](スマトラ島)を中心とする港市国家連合⇒[5]海峡を支配
- 8世紀半ば…[7]朝(ジャワ島中部の農業国家)
- ⇒大乘仏教が広まり、ジャワ島に[8]寺院が築かれる
- 10世紀以降…[9](三仏齊)を中心とする港市国家連合が栄える
- ジャワ島東部…諸王朝がマルク(モルッカ)諸島の香辛料、ジャワ島の胡椒を輸出して勢力伸ばす
- ⇒14世紀、[10]朝がインドネシア群島のほぼ全域を影響下に
- 大陸部
- [11](真臘)…クメール人、9世紀から強大化
- 最盛期(12～13世紀)：ヒンドゥー教寺院[12]、都城[13]建設
- [14]朝…南下したビルマ人がエーヤワディー川中流部に建国⇒海岸部に進出
- [15]族…13～14世紀、大陸北部で勢力拡大⇒各地に国家を建てる
- [16]…北部ベトナムで10世紀に中国から独立⇒[17]朝以後に発展
- 中部ベトナムのチャンパーと争う
- [18]朝…モンゴルの侵攻を撃退⇒民族意識を高める
- 13～14世紀までに形成された独自の古典文化⇒各国の古典時代として記憶される

確認

空欄に適語を記入しよう。

- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____

チャレンジ読解力UP! 東南アジアの仏教

(1) 右の図を見て、次の問いに答えよう。

① 次の文の()に当てはまるものを選び、丸をつけよう。
スマトラ島のシュリーヴィジャヤは、(大乘仏教 ・ 上座仏教)の国家で、(農業国家 ・ 港市国家連合)として繁栄した。

② ジャワ島のボロブドゥールには、大きな仏教寺院の遺跡があり、近くのヒンドゥー教寺院群とも共存していた。このような仏教やヒンドゥー教の寺院が建立された理由を説明しよう。

図 7～8世紀の東南アジア



↓世界各地のつながりをまとめた年表「同時代のつながり」の、教科書 p.213-221 に対応したページの例（生徒用）

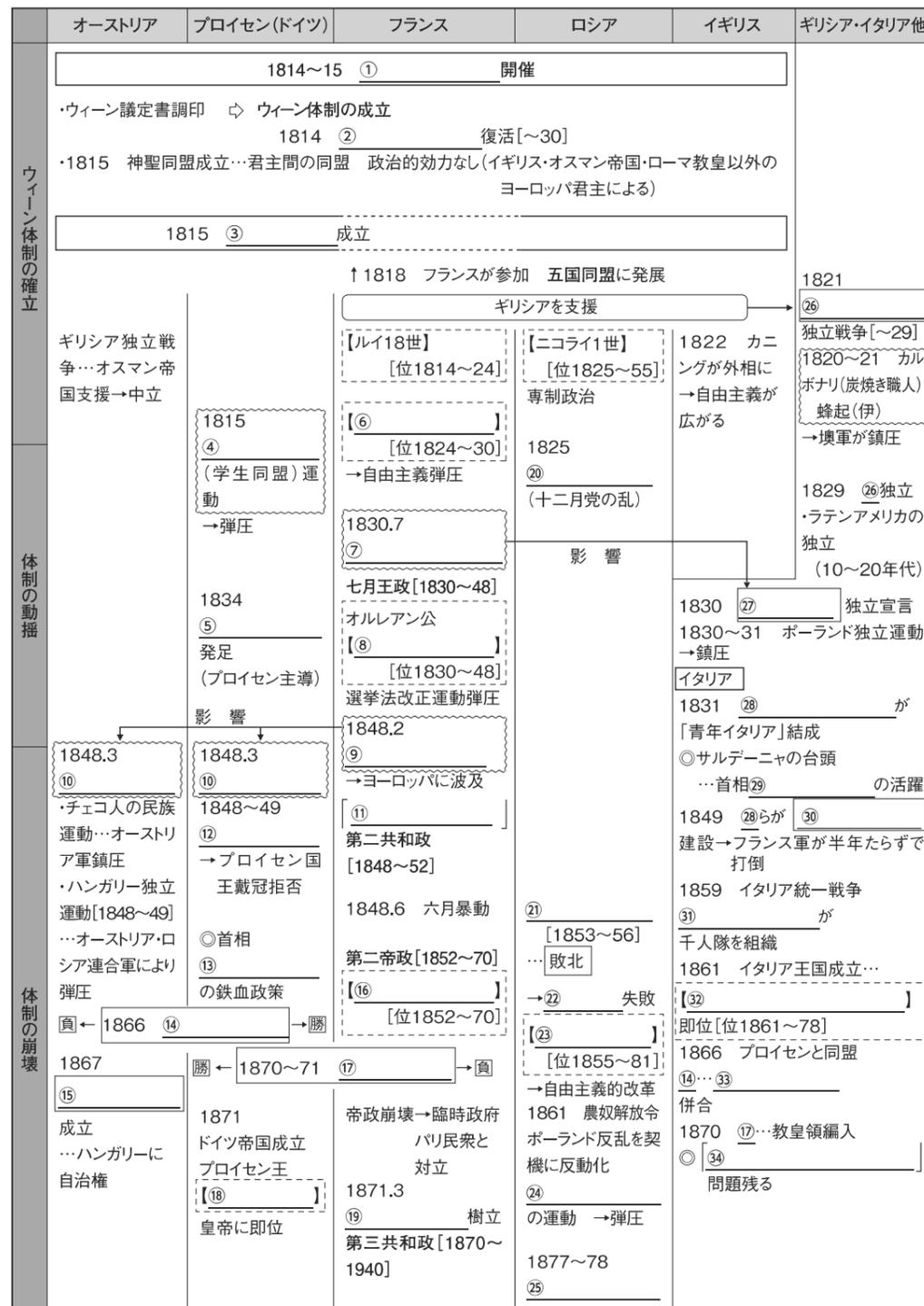
同時代のつながり⑨

◎流れ図を見る視点

【教科書p.213～221】

1. ウィーン体制の成立とその崩壊から国民国家形成が始まることを確認しよう。
2. 西欧各国の状況を正確に把握しよう。

● ヨーロッパに広がる国民国家

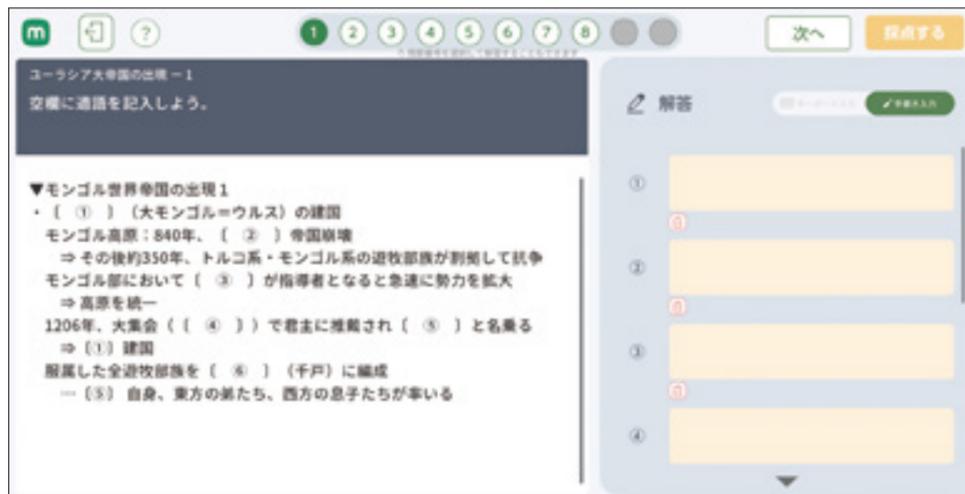


デジタル準拠ノート 新詳 世界史探究

定価：980円(本体891円+税) / セット版(書籍+デジタル)1,480円(本体1,345円+税) ※価格は令和7年度のものでです。
 内容：(1) 教科書準拠ノートをタブレット用に再構成、正誤の自動判定機能を搭載しています。
 (2) 資料の読み解き問題や演習問題を収録しています。
 (3) 先生用管理ページで、生徒の学習進捗状況を確認できます。
 (4) 作問ツールで先生が問題を作成、配信もできます。

生徒向け機能

教科書準拠の問題にタブレットで取り組める



- ◆タブレットに直接入力することで解答できます。
- ◆解答画面で、手書き or キーボード入力を選択できます。

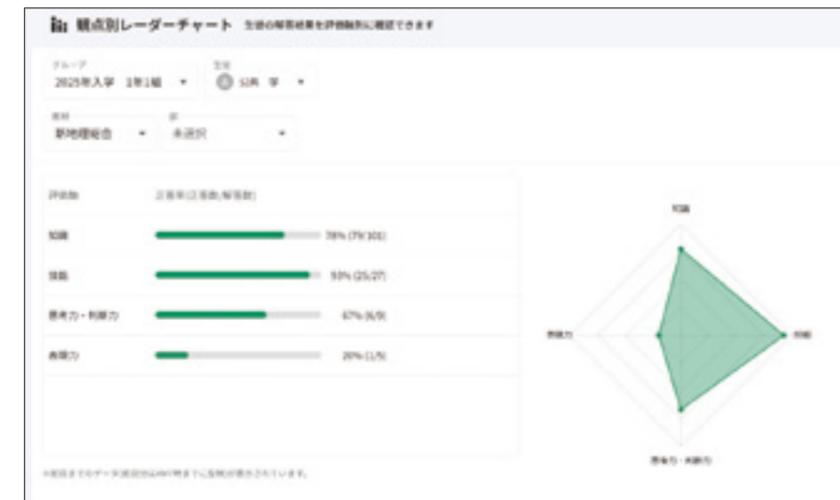
解答は自動で正誤判定、繰り返し学習できる



- ◆解答は基本的に自動で正誤判定されるので、先生のご負担軽減にもつながります。(記述問題は自己採点形式)
- ◆繰り返し何度も演習することができるため、基礎知識の確実な定着が図れます。

先生向け機能

評価をアシスト



◆生徒ごとに課題の提出状況を確認できるほか、解答結果を自動集計できます。また、各問題に埋め込まれている評価軸(タグ)をもとに、正答率を自動集計してグラフ表示できる「観点別レーダーチャート」など、生徒の学習状況を“見える化”できる機能が充実しています。

※デジタル準拠ノート(イメージ)紙面は新地理総合の例

指導をアシスト



- ◆既存の問題だけではなく、先生が独自に問題を作る「作問ツール」も収録。出題形式や評価軸(タグ)も任意に設定できるほか、「指導書 Web サポート」(別売、→本冊子 p.3)収録の教科書掲載図版や先生がお持ちの画像を取り込んで作問に活用することもできます。作成した問題を生徒に配信し、Google Classroom 上で生徒に通知することも可能です。
- ◆単元ごとに、公開・非公開や提出期限の設定を行えます。

帝国書院ウェブサイト 会員登録方法のご案内

指導書 Web サポートのほかにも、ChiReKo (定期刊行冊子) のバックナンバーや、写真・動画、統計など、あらゆる情報を掲載！



帝国書院ウェブサイト ログインページ▶



帝国書院ウェブサイトのトップページ右上の「ログイン」ボタンをクリックします。



「会員登録」をクリックして、登録画面へ。

届いたメールに記載の URL にアクセスして
パスワードや所属先などの必要事項を入力

※メールは迷惑メールに入っている場合がございます

必要事項の入力は、3分ほどで済む簡単な
ものです。



会員登録が完了し、ログイン後は「会員ページ」から、Web サポートなどの各種サービス
を閲覧することができます。

※サイト内の画面は、変更になる場合がございます